

2010.09.13／環境商工委員会

(かのう) 生活文化課にお伺いします。前も個人的には質問させていただいたのですが、交通安全誘導活動事業ですけれども、8月31日は全国ワースト4位ということで、その前は3位だったので心配だったのですが、4位になって、少しはよかったなと思いますけれども。

これは雇用創出事業という予算の中で組まれているのですが、事業の内容を見ると、交通誘導警備員によるということなので、これは警備会社業務委託ということですから、今まで警備会社にいる人を使ってやるということなのでしょう。それとも、新規に警備会社で改めて雇ってもらうということなのでしょう。

(かのう) そうすると、具体的に何人になるのでしょうか。人数はわかりますか。

(生活文化課長) 募集の状況にもよりますけれども、大体三十五、六人を既存の警備会社の社員、それから、六十五、六人を新規の雇用者というふうな想定をしております。

(かのう) これは疑っているわけでも何でもないので、このところずっと雇用創出関係の予算ということで、さまざまな事業を合わせているのですが、生活環境部とはちょっと違うかもしれませんけれども、その辺が本当に雇用創出につながっているのかどうかと疑問視する内容が多々あるものですから、ちょっとお聞きしたかっただけなのです。これはこれで終わります。

それと、反射材なのですが、これはどのような反射材なのか、わかれば教えてください。

(生活文化課安全なまちづくり推進室長) 立哨活動中に配る反射材につきましては、夜間の立哨でございますので、つけてない人に配るということを基本に、まだ具体的に決めていないのですが、大体、たすきタイプか、あとは手足に巻くタックルバンドタイプというふうに考えております。

(かのう) 今、普段、交通安全で配っているたすき、あの磁石のもんですね。ぱんとはねると丸くなるもの、わかりました。実際、今、反射材を配っても、もらう人も、たすきがけは恥ずかしいというのがあって、しない人が多いということ、あと、タックルバンドも、どちらかというとカバンのベルトにつけたりなどして、している人はいいのですが、実際に余り目立たないとあれですけれども、これはしょうがないですね。そうするしかないですね。

これは私の意見なのですが、先般、きょう、新聞記事を持ってこなかったのですが、どこかの高校が制服に反射材を塗った制服をつくったという話がありました。夜間の通行、自転車もそうなのですが、反射材もそうなのですが、世論の動きとして、夜間、見えにくい服装というのですか、黒っぽ

いのとか、制服などもそうなのです。あと、学校のカバンなども黒っぽいのが多いのです。ですから、そういうのも含めて、交通安全誘導活動の中で、チラシなどにも、一言、なるべく明るいものを着るとか、そういうことを含めた全体的な、反射材を配るだけでなく、安全確保のためにはそうしてくださいみたいなことも書いていただければいいなと思っております。

以上です。よろしく申し上げます。

(生活文化課長) 狩野委員の御意見、十分に反映しながらというふうに思っております。特に、ただ配るだけではなくて、できたら、実際、例えば、車のライトに当てたり、あるいは懐中電灯に当てたり、見方が違いますということを説明しながら配れば、着用率も向上すると思いますので、委員の御意見を踏まえながら、説明しながら配るということを基本にしていきたいというふうに思っております。

(かのう) それでは、質問させていただきます。

消防防災課への質問なのですが、去る7月23日、茨城県で震度5弱の地震が発生したのですが、私のかすみがうら市も結構揺れたのですが、そのとき県はどのような対応をとったのか、報告をお願いします。

(消防防災課長) 7月23日、6時6分ごろ発生しまして、鹿嶋市で震度5弱という揺れでございました。震度5弱となりますと、我々消防防災課職員、危機管理室もそうですが、土木職員とか、警戒態勢第1というものを、その時間に態勢をとるということになっておりまして、私も含めて、30分以内に7名、60分以内に18名が参集した。消防防災課21名おりますが、60分以内に18名が参集した。当然、当直者も1人いますので、地震発生と同時に、国の方に被害を30分以内に報告することになっておりますので、そういったこともやって、あとは、市町村、消防機関にもファクシミリを流して情報収集に当たっている。

さらには、防災ヘリコプターも飛ばして、特に鹿嶋、神栖、地元からは何の被害の報告もなかったのですが、念のため上空から偵察ということで、防災ヘリコプターを飛ばして、県庁6階の防災センターでも我々が上空の映像を見たということでございます。

(かのう) 機敏な動き、ありがとうございました。結果的には、被害が少なかったということで、よかったと思っております。

これは私の持論で、毎回言っていますけれども、このところ、震度5クラスの地震が発生しています。私は、近年中に必ず大規模地震が起こると予言をしているのですが、あと、大災害が起きる可能性が非常にあると信じています。

万一、23日も震度5でしたけれども、それクラスの大規模な地震等が発生し

たときに、我が茨城県はどれくらい影響があるのか、予想なのでしょうけれども、報告をお願いします。

(消防防災課長) 平成16年に国の方で想定しましたのがありまして、首都直下地震、東京近郊ですが、18パターンできておりまして、その中で茨城県南部地震というのが一つ想定されております。

それによりますと、マグニチュード7.3の規模、それから、時間的には18時、風速が15メートルという想定の中で被害予想がされております。これによりますと、本県の建物被害は、約3万棟全壊、それから、死者数約300人といった予想がされているところでございます。

(かのう) ○狩野委員 今、死者300人ぐらいという予想——これは予想ですが——ということなのですけれども、万一、これらの災害が発生したときに、県としてはどのような対策を行うのか、教えてください。

(消防防災課長) 地震が発生しましたら、地域防災計画にも載っておりますが、それに基づいてそれぞれの分野で動くということではございますが、地震というのは発生予測が困難ということではございますので、県としましては、地震が起きた後にどういう対応をするかということ、自分の身は自分で守る、自分の地域は自分で守るというような考えから、私たちは、教育、啓発といったものに重点を置いておりまして、防災啓発研修会、それから、これは昨年から実施しておりますが、夏休み親子防災教室、それから、総合防災訓練、こういったものを通じまして啓発普及を図っているところでございます。

(かのう) もっと突っ込んで聞きたいのですが、生々しくなるといけないので、この辺にしていますけれども、教育ということなのですけれども、私は、万々に備えて、防災意識の向上と防災訓練等に力を入れるべきだと思っています。今のところ、年に1回とか、地域も1回、2回ぐらいの総合訓練とか、学校の避難訓練とか、いろいろそういう名前でやっておりますが、大体年に一、二回です。

ただやっているという形ぐらいしか見えないのですけれども、先ほどは想定が18時ということでしたけれども、万が一、日中起きたとき、特に農村部とか町でないところは、日中だれがいるかといったら、子ども、小学生、中学生、高校があれば高校生、それと年配の高齢者という形になると思うのです。ですから、もし日中何か起きたときに、その地域でだれがどうするのかということを見ると、私は、小中学生や高校生に対してきちんと教育、今、防災課長も教育、啓発が大事だとおっしゃっていましたがけれども、学校のカリキュラムにもぜひとも入れてほしいと思っていますのです。前の一般質問でも、私は徴平制度などという話をしましたけれども、訓練していないことは本番はできないわけですから、日ごろの訓練というか、周知を含めて、小中学生がどう対応する

のかということを含めて、ぜひ取り入れてほしいと考えております。

ただ、これは教育現場の話になってしまうので、教育庁のと答弁されては困ってしまうのですけれども、防災担当者として、遠藤さんでもいいし、山田室長でも構わないのですけれども、防災を担当している人から見て、そういった地域での教育のあり方みたいな部分を何かお話ししていただければ結構です。よろしくをお願いします。

(生活環境部参事兼危機管理室長) ただいまの委員の御指摘ごもつともでございます。私どもも、防災に対応するためには、前回は申し上げたと思いますが、まず、自助、続いて、隣同士で助け合う共助、そして、最終的に、自分たちだけでどうしようもないときには公助ということで公共機関の助けを求めて、それで対応していくという枠組みで対応していくべきだと思います。

そういう中で、地元に残っておられる高校生なり高齢者の方にも、自分でできることを行っていただくということは非常に重要だということになりますので、今後、そういう学校教育の中で、今どれだけできるかというのは即答はできませんが、確かに、一部、原子力でいえば、JCOの事故の後に副読本をつくりまして、小学校は理解ができるということで、高学年だけでございますが、あと、中学生、高校生、それぞれの副読本をつくって、学校の例えば総合学習ですとか社会、あるいはそういう避難訓練の中に活用していただくというような取り組みもございますので、今後、いろいろ研究をしてまいりたいと思います。

(かのう) ぜひそういう方向で生活環境部としても動いていただきたいし、私も、防災、防犯、防衛の3防については引き続き力を入れていきたいと思ます。

3個目で、これは要望というか、お話で、質問ではございませんので、聞いていただきたいのですけれども、子供の安全教育総合研究所の代表である日本女子大の宮田美恵子先生というのが、新聞に載っていたのですけれども、こう言っているのです。危険から自分の体や命を守る方法を繰り返し訓練し、体で覚えさせることが大切です。親子で実践するのは効果的という話をしています。これは子どもの防犯という意味でも講演している方なのですけれども、まさにこのとおりだと思っています。大人はそれなりにスキルがあると思うのですけれども、子どものときからそういう意識を高めて、目の前に倒れていた、目の前に燃えていたものがある、目の前に危険物があつたら、自分はどうか対応するのだということを常に教育できるような意識の向上をしていければと思いますので、ぜひとも消防防災課と危機管理室の方には、引き続き、御協力と御指導のほどをお願いいたしまして、質問を終わります。

(かのう) まず、最初に、質問する前に質問したいのですけれども、きょうの資料を見てちょっと不思議だったのですが、これ、書き方が変わったのですか。フォーマット。最初、ちょっと見にくかったのです。これ、何でこうなってしまったのかなと思って。これを説明していただければと思ったのですけれども。

(商工労働部企画監) それぞれ、付託案件と、それから、前回からの状況なのですけれども、前回の第2回定例会の様式と同じ様式で作成させていただいているかと思うのですけれども。

(かのう) 何かというと、結局、こういう提出は、別に県に限らずなのですが、何が重要かといったら、予算が重要なので、お金が幾らかというのが、ほかの課と同じように書いてもらわないと、これを見ていると、下の方に補正予算額がちょこちょこっと書いてあるので、書き方なのでしょうけれども、ほかの委員会はほとんどこうではないですよ。政調会が出るような資料で、目的があって、補正予算額が幾らと書いてあったので、そっちの方が見やすいなと思っていたもので、第2回定例会も同じでしたか。気がつきませんでした。それが知りたかったのですが。

では、本題に入ります。

いろいろお話しいただいたのですけれども、皆さんの各課の話を聞いていて、ちょっとおかしいなと思うところがありました。委員の方々も思ったのかもしれませんが、商工労働部として茨城県をどうするかということに対しての話、議案の提案だと思って聞いているのですが、聞いていると、どうも雇用促進関係のお金の使い道をこう考えていますよみたいな感じに聞こえてしまうのです。

特に、一番わかりやすいのは観光物産課かもしれないのですけれども、聞いていて、茨城県の観光物産のために茨城県はこれだけお金を使うのだというよりも、何人雇います、ですから、これに合わせてこういうことをやりますよみたいな感じに聞こえてしまっているのです。言っていることわかりますか。

だから、今回の補正予算が、ここにも雇用創出等基金事業一覧と書いてあるので、これを使うということは非常にわかるのですけれども、事業の中身が、本当に茨城県のために考えているのかというのがちょっと私には伝わってきませんでした。

例えば、きょうの資料2の観光物産課でいけば、16ページ、17ページを見ても、いばらき着地型旅行商品開発事業についてということであります。着地型というのも意味がよくわからないのですけれども。例えば、事業主体は旅行者へ委託してしまうわけでしょう。コースを見ても、「桜田門外ノ変」ロケ地、ゆかりの地というのですけれども、私、ここをこの前も全部回ってきましたけれども、正直言って、おもしろくないですよ。だって、お土産も売っていない

し、解説する人も特にいるわけではなく、特に目新しいものはない。こんなのは別に旅行会社に委託してやるようなコースでもないだろうと。

親鸞の寺院も、歴史館も、実は、先週、私、見てきましたけれども、2時間ぐらいかけてじっくり見ましたけれども、特にかわりばえしないし。西念寺で昼を、大覚寺、願入寺、特にここに国宝級の仏像もたしかなかったと思います。だから、親鸞にまつわる、京都のような、ふだん見られない仏像が見られるぞとか、そういうのがあるのならまた別なのでしょうけれども、そういうのがない。でも、新規雇用3名を使ってこれだけお金を使いますよ。ちょっと何なんだというのが正直ですね。

次の17ページも、観光写真ライブラリー事業ということなのですが、知られざるところがあるので、いろいろな写真を集めて情報収集したいみたいなことを言っていますけれども、これだって、別に、カメラマン、高度な技術を有する人を雇って、これだけお金を使ってやる事業なのかなというのが不思議なのです。

本来、雇用創出というのがどういう意味であれなのかよくわからないのですが、今、不景気だし、高校生も大学生も就職できないし、首になった人もいっぱいいる。でも、この県の事業を見ている限り、そういう人を対象ではなくて、雇用される人間がある程度専門家なのです。旅行の専門家とか、企画の専門家とか、カメラの専門家とか。では、何のための雇用なのかということが、その人たちのためにそんなにお金を使ってこんなもともらしい事業をする必要があるのかなというのが非常に不思議なのです。

ですから、この前の高橋靖議員の一般質問で、今、フリーターとか学生たちがいる。だれでも何でも簡単にできるような仕事と雇用をふやそうなどという案がありましたけれども、僕はそういうのに使って茨城県を活性化していくことに使った方がよっぽどいいのではないのかなと思いつつ聞いていました。

いろいろ個人的な案もあるのでありますが、その辺を含めて何かお話はありますか。

(観光物産課長) 狩野委員からの御質問でございますけれども、こちらとしては両面あるというふうには考えておまして、まず、雇用創出等基金を活用させていただくということもございますので、新たな雇用を創出する。失業者という中で雇用を生み出すということと、いばらき着地型旅行商品の開発事業であれば、県北地域、こういった隠れたといいますか、さまざまな観光資源がございますので、そういったものを結ぶ商品を、民間の事業者の知恵なり、あるいは窓口とか、そういったネットワークを活用させていただいてつくっていただくことで、県北地域ですとか、そういったゆかりの地などに人を呼び込む。

そういう両面の目的で実施をしたいというふうに考えております。

(かのう) それはわかるのですが、これは観光物産課だけで約1億1,000万円です。雇用が24人、でも、その雇用の24人だってほとんどプロでしょう。例えば、着地型旅行でいけば、前もここで言ったのか、総務で言ったのか忘れましたが、中国と韓国の旅行者が日本に何しに来ているのといったら、ゴルフもそうなのですけれども、買い物も一部の人なのですけれども、日本を体験したいという人が多いのです。ですから、これは、例えば、地域の商工会でもいいし、観光課でもいいので、そういうところを使えば、例えば、袋田の温泉に入って森林浴ツアーとか、大洗でサーフィンをやって、磯釣り大会とか、そういうのを地域の商工会とか漁協とか農協の青年部の知恵を使っているいろいろな企画をして、それに旅行会社が乗っかるという方がよっぽどいいと思うのです。

観光写真などというのは、フォトコンテストをやって、穴場を紹介してくださいみたいな感じで民間に振った方がよっぽどいい写真は、写真のできればえは悪いかもしれないけれども、みんなが知らない情報は一般の人が知っていますよ。プロカメラマンを持っていったって、ここを撮ってくださいと言えば撮ってくれるけれども、最高にうまいかもしれないけれども、ローカルネタは我々の方が知っているわけですから、よっぽどそっちの方がいいのではないかなと思うのです。

外国人観光客県内周遊サービス事業についてだって、デマンド型バスだから6名以上なのだろうけれども、今、韓国の人が、中国もそうなのですけれども、来たい人は、夫婦か家族4人なのです。大体2人か4人なのです。だから、その人は対象にならないでしょう。レンタカーがあるのかといったら、日本車だし。前に、私は、ヒュンダイがいいと総務企画委員会で言ったのですけれども、取り入れてくれなかったけれども。

あと、いばらき夢ガイドだって、これは、今いる夢ガイドをそのまま雇用することなのだろうけれども、正直言って、いばらき夢ガイド、やっていることはあるけれども、特に茨城らしい女の子というわけでもないでしょう。要するに、ミス茨城コンテストで優勝した人というわけでもないし、ただちょっと韓国語ができるとかそんなこと。

だから、全体的に言えることは、観光物産課でいうならば、これだけお金を使うのだったら、茨城県が一番足りないおもてなし精神ですよ。ですから、よっぽどテレビに出ている有名な講師の先生を高い金を払って呼んで、茨城県の人を、県内、1カ月、ずっと講師して回って、そっちにお金を払って、「ようこそ茨城へ」とみんなが言えるようなおもてなしの精神を植えつけるとか、そっちの方にどんどん使った方がよっぽどいいと思うのですけれども。ちょっと話

がずれてしまいましたけれども。

項目はおもしろそうなのだけれども、中身を見ると、お金がもったいないというのが私の正直な感想なのです。

以上。

(観光物産課長) 狩野委員からの御質問に対する答えに直接なるかわかりませんが、今回、新たに20数名雇わせていただきます。それぞれ、写真であれば腕前のある方、旅行商品の関係であればそういった知識のある方ということで、そういった意味では、ハードルと申しますか、敷居は高い部分があるかと思えますけれども、そういった方々の知恵をうまく活用させていただきながら、目的を達するためにやっていきたいというふうに考えております。

(かのう) 16ページの例えばこのコース、「桜田門外ノ変」と親鸞の話なのですが、ここに載せていますけれども、ここに載せて恥ずかしいと。正直言って、これで本当にいいと思って載せているのかちょっと不思議なのです。徳川博物館は、しょっちゅう行っている人だったら、展示物が変わっていますからいろいろ見られるのです。行っても、特に案内人がつくわけではないから見られないでしょう。

「桜田門外ノ変」も、私は映画にも出ていますけれども、皆さん、あのロケ地に行ったことがありますか。手を挙げなくてもいいですけれども、行きましたか。行くとわかりますよ。あのロケ地、おもしろくないですよ。だって、外側の建物だけで、白い雪のような砂でしょう。それしかないですよ。桜田門の前に向かって写真撮影ポイントが1カ所だけあって、刀を持ってふっとやるだけなのです。あとはボランティアの人がちょこちょこっというだけです。それで、映画のロケの内容がちょこっというけれども、あれを外国人が見たってさっぱりわからないですよ。お土産だって、おまんじゅうとかそんなものしか売っていないでしょう。あとは印籠マークぐらいですからね。映画にエキストラで出た私でさえおもしろくなかったのですから。ただ、ボランティアの人は一生懸命頑張っています。ですから、それが載ってしまっているでしょう。

西山荘だって、歩いて行って、きれいだな、わびさびだなと思いますけれども、では、外国人に何を売るのだというのが見えてこない。

これは、旅行会社が、旅行のタイムテーブルとかそういうのは組めるけれども、この中身のプランニングと中身の濃さというのは、我々が、県民が知恵を出さなければいけないわけですから、もっとその辺を考えないといけないのではないのかなと思うのです。

ですから、「桜田門外ノ変」でいけば、ロケのあそこを使うのだったら、ボランティアの人がたくさんいますから、彼らに、それこそコスプレしてもらって、あそこでちゃんばらごっこをやるとか、京都の映画村みたいに一緒に写真を撮

るとかやれば外国の人は喜びますよ。切られて、わーとかやっていたらですね。それもやっていないでしょう。

だから、ただ場所を見に行っただけで、これがコースです、これが着地型ですと言われてしまうと、私としては、ちょっと何ですかというのが正直な気持ちで、ちょっと残念です。